

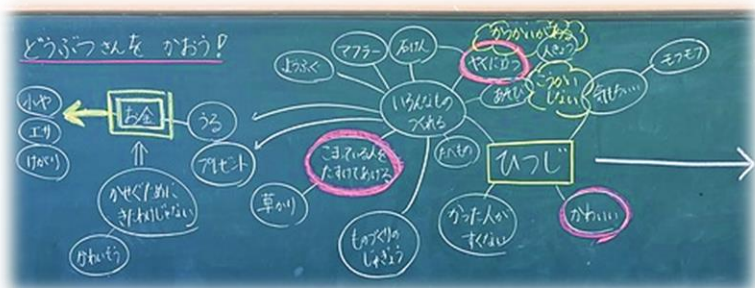
しあわせにしてあげるからね
～羊のもなちゃんとのからし～



探してた動物は羊！

4月8日。2年2組の生活の授業では、動物飼育についての話し合いを始めました。きっかけとなったのは、4人の子どもたちが、「2年生になったら、何か動物を飼ってみたい」と、春休み帳の裏表紙に綴っていたことでした。わたしは、クラスの子どもたちに動物飼育について投げかけてみました。すると、多くの子どもたちが、「動物を飼いたい」とつぶやきました。そこで、どんな動物を飼いたいのか、出し合うことにしました。ひよこ、牛、ヤギ、うずら、馬、犬、ヤマアラシ、ペンギン、ネコなど、様々な動物が出されていく中、Aさんが、「かわいいだけでいいの？かわいいだけで飼うなら意味がないよ。かわいいだけなら家でも飼えるじゃん。学校じゃなきゃ飼えない動物がいいと思う」と語気を強めて言いました。それを聞いた Bさんは、「役に立つ動物がいいと思う」と続けました。「役に立つってどういうこと」と尋ねると、「ニワトリは卵を使えるし、牛は牛乳を使えるし、馬は乗れるみたいなこと」と答えてくれました。この言葉を聞き、さらに悩み始めた子どもたち。そこで、友だちが飼いたいと思っている動物を、表とグラフで整理することにしました。1番多かったのがうさぎ、2番目が羊、3番目がポニーというように、表とグラフを活用して、順位を導き出した子どもたち。その結果を見た子どもたちからは、「うさぎでいいじゃん」という声が聞こえました。しかし、Cさんは、「人数が少なくても飼いたい人はいるから、ちゃんと納得して決めたい」とみんなに伝えました。「それだと時間がかかる」と言う声もありましたが、Dさんは、「時間がかかってもいいと思う。ちゃんと考えて飼うことを決めたい」とみんなに伝え、子どもたちもその意見に納得しているようでした。

4月17日。わたしは、子どもたちに、どうしてかわいいただけではなく、役に立つ動物を飼いたいのか尋ねました。Eさんは、「役に立つ動物を飼えば、卵を食べられたり、牛乳を飲めたり、毛を使って洋服やマフラーを作れたり、みんなを助けることになる。それに、動物からもらったものをどうやって使うか勉強になるから」と、考えを伝えてくれました。わたしたちの生活の中でどのような動物が利活用されているのかを見つめていく中で、子どもたちは、羊に価値を感じていきました。Fさんは、「飼いたいものは羊。かわいくて役に立つから。探してた動物だ！と思ったから」と綴りました。



羊さんにとっての幸せって？

2年2組で羊を飼うと決めてから、子どもたちは準備に大忙しです。湿気が嫌いな羊さんが雨に濡れないような小屋をつくったり、おやつにあげるためのニンジンやキャベツを育てたりと、羊さんを迎える準備を着々と進めています。さらに子どもたちは、羊さんの飼い方を、タブレットや図書館の本で調べ始めていました。そんな中Eさんが、「タブレットで調べたけれど、分からないことがまだある」と言いました。「どんなことが分からないの」と尋ねると、「えさの量や、散歩の時間や、食べちゃ



いけない草とか」と答えました。そして、「羊の飼育員さんや、動物園の飼育員さん、牧場の人みたいに、いつも飼っている人に説明を聞いて、本当のことを知りたい」と語っていくのでした。それを聞いたCさんも、「命にかかわる大きな失敗をしたくない」と、羊のことを詳しく知る人に、情報を聞きに行く必要性を語りました。そこで、子どもたちに羊のことを詳しく教えていただける牧場を探し、信州大学繊維学部附属大室農場で羊の飼育についてお聞きすることに決めました。しかし、1つだけ問題がありました。それは、7月に入ってからではないとお伺いすることができないということです。7月1日にお迎えする羊さんを、1日学校に置いていかなければならないのです。わたしは、見学を即決したものの、後から、「子どもたちはクラスに羊が来ても、本当に大室農場に行きたいのか。行きたくなくなる子もいるのではないかと」、不安に駆られ、行くことを悩みました。そこで、子どもたちにもう一度思いを聞くことにしました。

6月26日、わたしは、7月8日に大室農場に行けるようになったことを伝えると同時に、それにはクラスの羊さんを1日学校に置いていかなければならないけれど、それでも大室農場に行くか問いかけました。すると、Aさんは、「7月8日は、羊さんにとって幸せじゃないかも。かわいそう」と語りました。それを聞いたCさんは、「7月8日は、羊さんにとって幸せじゃないかもしれないけれど、大室農場で羊さんの飼い方を教えてもらえば、その後はずっと幸せにできると思う」と語りました。Eさんは、「7月8日にわたしたちが大室農場に行かなければ、羊さんはその日は幸せだと思う。でも、その後はどうなるか分からないよ。わたしは羊さんに長生きしてほしいし、幸せになってほしい。だから、その日は幸せじゃないかもしれないけれど、羊さんを最後まで幸せにしてあげるためには、行った方がいいと思う」と思いを語りました。Aさんは、友だちの語り合いを聞く中で、授業の終わりに、「2組に来る羊さんは生まれて3ヶ月くらいの赤ちゃんだから、タブレットで調べたことが、赤ちゃんにも使えるか分からない。だから、大室農場の佐藤さんにちゃんと聞いた方がいいかも」と語りました。Aさんは、友の意見を聞く中で、羊さんには、「その日」の幸せと、「これから先」の幸せがあることに気づき、それらを天秤にかけて見つめ、「これから先」の幸せを大切にしたいと願ったのではないのでしょうか。

羊さん、幸せにしてあげるからね！

小雨の降る7月1日(月)、いよいよ羊さんご対面です。ゲージから出てきた羊さんを見て、恐る恐る近づいていきます。一人の子が、羊さんに触れると、他の子も次々に羊さんに触っていきます。「ふわふわ」、「気持ちいい」、「かわいい」、と感じたことが言葉となって出てきます。いつの間にか子どもたちは、羊さんの周りを取り囲み、触ったり、エサをあげたり、お水をあげたりと、羊さんとの触れ合いの時間を楽しんでいました。

こうして始まった羊さんとの暮らし。初めはリードを取り合ったり、エサを取り合ったりと、けんかをすることもありましたが、しかし、大室農場で、羊の飼育について学習してきた子どもたちは、行動に少しずつ変化がみられるようになりました。羊さんが来たときに散歩に行くことを欠かさなかったGさんは、ある日、自然体験園で絵を描いていました。気になったわたしが、「何しているの」と尋ねると、「ひつじさんが熱中症にならないように、日陰を通る散歩コースを書いている」と教えてくれました。大室農場で、



散歩をするときはなるべく日かげを散歩するといいいことを教えてもらったGさん。羊さんが安全に散歩できるようなコースを、実際に目で見て書いていました。直接かかわることだけでなく、羊さんに思いを寄せて行動している姿がそこにはありました。

羊さんとの暮らしでは、思い通りにいかないこともたくさん起こります。思いがけないことも起こります。そうした目をそむけたくなる事実にも、子どもたちと向き合っていきたいと感じた7月でした。